

厚生労働科学研究費補助金

(障害者対策総合研究事業(障害者政策総合研究事業(精神障害分野)))

(総括・分担) 研究報告書

精神科入院患者の骨粗鬆症ならびにロコモティブシンドロームの実態調査に関する研究
研究分担者 田中 栄 東京大学 教授

研究要旨

本研究の目的は、精神科長期入院患者の骨粗鬆症やサルコペニア、ロコモティブシンドロームの実態を調査することにより、どのような対策が有効であるのかについて知見を得ることである。精神科病院入院患者のADLを維持、向上することは、長期入院患者の地域在宅への移行促進や医療費の削減に寄与すると考えられる。

A. 研究目的

近年、精神科病棟では全入院患者に占める高齢者の割合が増えている。高齢者において転倒による骨折が寝たきり状態をきたす大きな要因であることは知られており、加齢、整形外科疾患、運動機能低下を基盤とした骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、精神疾患およびそれに対する投薬などが影響するとされている。しかし現状では精神科患者におけるこれらのエビデンスは乏しくどのような対策が有効であるのかも不明な点が多い。本研究の目的は精神科入院患者の転倒・骨折予防の指針を得るために、骨粗鬆症やサルコペニア、ロコモティブシンドロームの状況を調査し、それに対する治療介入効果を評価することである。

B. 研究方法

1. 院内転倒・転落事故の実態調査

まず、カルテベースで平成28年度の院内転倒・転落事故について調査した。平成28年度の全入院患者に対して院内で作成した転倒リスクアセスメントシートに基づいて転倒歴などの既知の転倒リスクをスコアリングし、危険度、の3群に分類し、危険度以上に対して転倒予防対策を策定している。3群それぞれについて、転倒及び転落事故の発生数、またその重症度について調査した。

2. 骨粗鬆症、サルコペニアの実態調査
調査対象は都立松沢病院精神科入院患者のうち統合失調症と診断された患者とする。整形外科で骨折を含む下肢疾患の治療中の患者、ペースメーカーを有している患者を除外する。主要評価項目は、筋肉量、筋力、歩行能力、骨密度、骨代謝マーカーや血清ビタミンD濃度を含む血液検査とする。Asian Working Group for Sarcopenia(AWGS)によるアジア人を対象とするサルコペニアの診断基準やアルゴリズムに準じ、サルコペニアの有病率を調査する。骨粗鬆症の有病率は体幹(腰椎および大腿骨近位)DEXA法を

用いた骨密度および骨折既往を調査し、わが国の原発性骨粗鬆症の診断基準(2012年度改訂版)に基づき診断することにより行う。

3. 治療介入効果の調査

上記調査で骨粗鬆症と診断された患者を対象として、薬物治療介入効果を調査する。治療観察期間は1年とし、主要調査項目は1.治療前後の骨密度の変化 2.調査期間中の新規骨折発生率 3.骨代謝マーカー(TRACP5b、BAP)、その他生化学検査データの変化、とする。

(倫理面への配慮)

本研究は、ヒトを被験者とし、同意と協力のもとに実施する。被験者の人権ならびに安全性を確保するべく配慮し作成し院内倫理委員会で承諾を得た研究プロトコルに基づき研究を行う。研究で得られたデータを保管する際、また研究内容を公表する際には個人の特정이行えないように配慮する。

C. 研究結果および考察

1. 院内転倒・転落事故の実態調査

平成28年度の全入院患者に対して、入院時転倒リスク評価を行った。評価項目は年齢、転倒歴の有無、感覚(視力・聴力)、機能障害(麻痺、骨関節疾患)、活動能力(歩行、起立性低血圧)、精神症状、認知機能、薬剤、自己知覚(性格)、排泄機能からなり、危険度、の3群に分類した。1群5125名、群1398名、群466名であった。危険度およびに対しては環境調整や歩行・排泄・入浴介助などの対策を策定した。転倒・転落事故は総数で1189件起こっていた。それぞれの群で転倒・転落発生率を調べたところ、群では転倒441件(8.6%)転落64件(1.2%)転倒・転落による骨折6件(0.1%)、群では転倒370件(26%)転落73件(5.2%)転倒・転落による骨折11件(0.7%)、群では転倒125件(27%)転落31件(6.7%)転倒・転落による骨折24件(1.5%)という結果であった。また、治療を要する外傷(骨折、挫創、頭蓋内骨折)をきたしたケースの

うち、1群が32%、2群が45%、3群が21%、未評価が2%であり、1群および2群が66%を占めていた。この結果から、既知の転倒リスクを考慮したスコアリングは転倒・転落の危険度予測には有効であり、しかも転倒リスクが高い患者は転倒により重症度の高い外傷をきたしやすいということがわかった。しかし一方では予防対策の有効性をこの結果から評価することはできないと考えられる。

2. 骨粗鬆症、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの実態調査

平成30年2月に骨密度測定装置を購入し、当院に入院中の統合失調症患者を対象とした骨粗鬆症、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの有病率調査を開始し、データを収集中である。

3. 治療介入効果の調査

上記2.の結果から、骨粗鬆症治療対象患者を選定し、薬物治療効果の判定を行う

E. 結論

都立松沢病院における転倒・転落事故の実態調査の結果、その頻度は転倒リスクに応じて上昇し、また転倒リスクが高い患者は、骨折や頭蓋内骨折などの重篤な外傷をきたしやすいことがわかった。骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、精神疾患およびそれに対する投薬などが影響していることが予測され、今後これらの実態調査及び治療介入効果調査を行うことにより、有効な対応策を見出したい。

G. 研究発表

1. 論文発表

原著論文 12件

2. 学会発表

口頭発表 3件

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

